

グローバルC Bオープン・ 高金利通貨コース

追加型投信／海外／債券

日経新聞掲載名：グCB高金利



第20作成期 2021年5月20日から2021年11月19日まで

第114期 決算日
2021年6月21日

第115期 決算日
2021年7月19日

第116期 決算日
2021年8月19日

第117期 決算日
2021年9月21日

第118期 決算日
2021年10月19日

第119期 償還日
2021年11月19日

受益者の皆さまへ

平素は格別のお引立てに預かり、厚くお礼申し上げます。

当ファンドは投資信託証券への投資を通じて、新興国を含む世界の企業が発行する転換社債(CB)等を実質的な投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。ここに当作成期の運用状況等をご報告いたします。

皆さまのご愛顧ありがとうございました。

 三井住友DSアセットマネジメント

〒105-6426 東京都港区虎ノ門1-17-1
<https://www.smd-am.co.jp>

当作成期の状況

償還価額(償還日)	6,370円48銭
純資産総額(償還日)	852百万円
騰落率(当作成期)	+1.2%
分配金合計(当作成期)	100円

※騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

- 口座残高など、お取引状況についてのお問い合わせ
お取引のある販売会社へお問い合わせください。
- 当運用報告書についてのお問い合わせ

コールセンター 0120-88-2976
受付時間：午前9時～午後5時(土、日、祝・休日を除く)

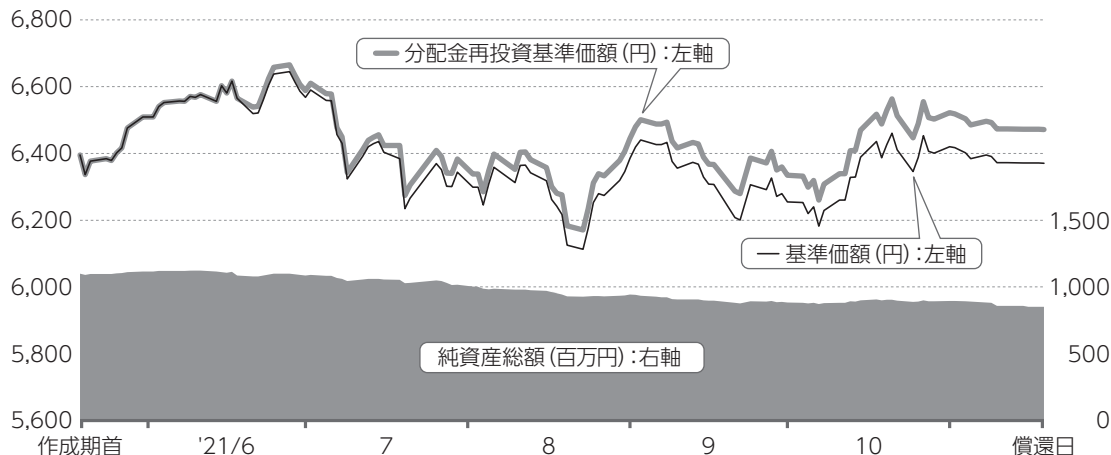
当ファンドは、信託約款において「運用報告書(全体版)」に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、次の手順でご覧いただけます。なお、印刷した「運用報告書(全体版)」はご請求により交付させていただきますので、販売会社までお問い合わせください。

【閲覧方法】<https://www.smd-am.co.jp/fund/unpo/>にアクセス→ファンド名を入力→検索結果からファンドを選択

1 運用経過

基準価額等の推移について (2021年5月20日から2021年11月19日まで)

基準価額等の推移



※分配金再投資基準価額は、作成期首の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

作成期首	6,395円
償還日	6,370円48銭 (当作成期既払分配金100円(税引前))
騰落率	+1.2% (分配金再投資ベース)

分配金再投資基準価額について

分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示します。

※分配金を再投資するかどうかについては、受益者の皆さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額などによって課税条件も異なります。したがって、受益者の皆さまの損益の状況を示すものではありません。(以下、同じ)

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

基準価額の主な変動要因 (2021年5月20日から2021年11月19日まで)

当ファンドは、グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド AUD Class、グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド BRL Class、グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド INR Classへの投資を通じて、新興国を含む世界の企業が発行する転換社債 (CB) 等を実質的な投資対象としました。

上昇要因

- インカム収入がプラスに貢献したこと
- 転換社債価格の上昇がプラスに寄与したこと
- 円に対してインドルピーが上昇したことがプラス要因となったこと

下落要因

- 一部銘柄の転換社債価格が下落したことがマイナスに作用したこと
- 円に対して豪ドルが下落したことがマイナスに作用したこと

1万口当たりの費用明細 (2021年5月20日から2021年11月19日まで)

項目	金額	比率	項目の概要
(a) 信託報酬	34円	0.539%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(経過日数／年日数) 期中の平均基準価額は6,386円です。
(投信会社)	(12)	(0.194)	投信会社：ファンド運用の指図等の対価
(販売会社)	(21)	(0.332)	販売会社：交付運用報告書等各種資料の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(1)	(0.013)	受託会社：ファンド財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	－	－	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数 売買委託手数料：有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(－)	(－)	
(先物・オプション)	(－)	(－)	
(投資信託証券)	(－)	(－)	
(c) 有価証券取引税	－	－	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税：有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(－)	(－)	
(公社債)	(－)	(－)	
(投資信託証券)	(－)	(－)	
(d) その他費用	0	0.000	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保管費用)	(－)	(－)	保管費用：海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送付金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	(－)	(－)	監査費用：監査法人に支払うファンドの監査費用
(その他)	(0)	(0.000)	その他：信託事務の処理等に要するその他費用
合計	34	0.539	

※期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出しています。

※比率欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

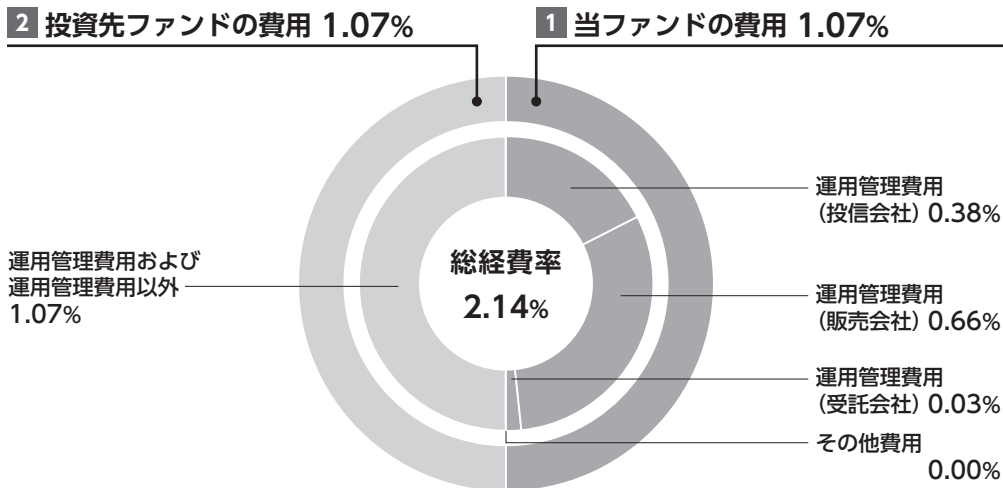
※各項目毎に円未満は四捨五入しています。

※売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

※各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。



参考情報 総経費率 (年率換算)



総経費率 (1 + 2)	2.14%
1 当ファンドの費用の比率	1.07%
2 投資先ファンドの費用の比率	1.07%

※**1**の各費用は、前掲「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したもので、各比率は、年率換算した値(小数点以下第2位未満を四捨五入)です。「1万口当たりの費用明細」の各比率とは、値が異なる場合があります。

※**2**の投資先ファンド(当ファンドが組み入れている投資信託証券(マザーファンドを除く))の費用は、実際に投資しているシェアクラスのデータが入手できない場合は、入手可能なファンド全体のデータをもとに委託会社が計算したものです。運用管理費用と運用管理費用以外の費用を明確に区別できない場合は、まとめて表示しています。投資先ファンドへの平均投資比率を勘案して、実質的な費用を計算しています。

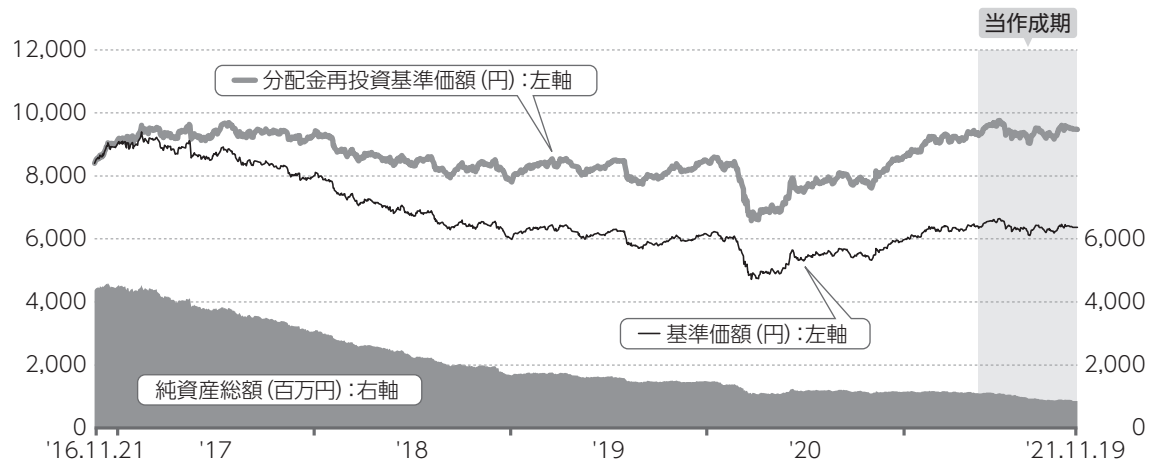
※**1**と**2**の費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。また、計上された期間が異なる場合があります。

※上記の前提条件で算出している参考値であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した比率に、投資先ファンドの経費率を加えた総経費率(年率)は2.14%です。

最近5年間の基準価額等の推移について (2016年11月21日から2021年11月19日まで)

最近5年間の推移



※分配金再投資基準価額は、2016年11月21日の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

	2016.11.21 決算日	2017.11.20 決算日	2018.11.19 決算日	2019.11.19 決算日	2020.11.19 決算日	2021.11.19 償還日
基準価額 (円)	8,399	7,966	6,462	5,950	5,647	6,370.48
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	1,200	865	360	240	220
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	8.9	-8.3	-2.4	-0.8	16.8
純資産総額 (百万円)	4,367	3,219	1,955	1,455	1,136	852

※2021年9月21日のシステム統合により、小数点以下の端数処理等、計算ロジックの一部が変更となっています。

※当ファンドの運用方針に対し適切に比較できる指数がないため、ベンチマークおよび参考指数はありません。

投資環境について (2021年5月20日から2021年11月19日まで)

転換社債市場

期間におけるグローバル転換社債市場は、プラス・リターンとなりました。

グローバルなインフレ圧力の高まり、それに伴う金融引き締め観測と景気後退への懸念、新型コロナウイルス(デルタ型)の感染拡大によるサプライチェーン(供給網)の混乱、中国の不動産セクターを巡るボラティリティ(価格変動性)などが転換社債市場ではマイナス要因となりました。しかし、米国を中心に企業業績が予想を上回る内容となるなか、経済活動再開による経済成長率の回復といったファンダメンタルズ(基礎的条件)面の好材料で株式市場が上昇を続けたことが、転換社債市場の上昇を下支える大きな要因となりました。特に米国市場は、財政効果もあって経済活動が活発となり、市場のセンチメント(投資家心理)改善に寄与しました。

為替市場

期間において、インドルピーは円に対して上昇しました。一方、豪ドルは円に対して下落しました。

ポートフォリオについて (2021年5月20日から2021年11月19日まで)

当ファンド

主要投資対象であるグローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド AUD Class、グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド BRL Class、グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド INR Classを期間を通じて高位に組み入れました。また、各通貨の配分は概ね均等とすることを基本としました。なお、親投資信託であるキャッシュ・マネジメント・マザーファンド受益証券へも投資を行いました。

グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド AUD Class

グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド BRL Class

グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド INR Class

ポートフォリオでは可能な限り高格付けを維持することを意識しながら、一定程度の利回りと株式への感応度を得られるようなバランスを重視した投資を続けました。

個別銘柄では、米国のIT (情報技術) 関連会社であるニュー・レリックの保有がプラスに寄与しました。ソフトウェア関連銘柄が全体的に堅調な動きとなったほか、クラウドサービスへの需要増加などを背景にアナリストが

投資判断を引き上げたことで、転換社債価格が上昇しました。

一方、中国当局の規制強化を背景に、アイチイーやピンドゥオドゥオなどの中国企業の保有がマイナスに作用しました。規制強化の内容は教育サービス提供企業の非営利化やハイテク企業の監督強化を求めるもので、関連企業は大幅に調整しました。

キャッシュ・マネジメント・マザーファンド

安全性と流動性を考慮し、短期の国債・政府保証債を中心とした運用を行いました。年限に関しては、残存6ヵ月以内の短期の国債・政府保証債を中心とした運用を継続しました。

ベンチマークとの差異について (2021年5月20日から2021年11月19日まで)

ベンチマークおよび参考指数を設けていませんので、この項目に記載する事項はありません。

分配金について (2021年5月20日から2021年11月19日まで)

期間の1万口当たりの分配金(税引前)は、基準価額水準等を勘案し、以下の通りといたしました。

留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用いたしました。

なお、第119期については、償還のため該当事項はございません。

(単位：円、1万口当たり、税引前)

項目	第114期	第115期	第116期	第117期	第118期
当期分配金	20	20	20	20	20
(対基準価額比率)	(0.31%)	(0.31%)	(0.32%)	(0.32%)	(0.31%)
当期の収益	-	-	-	-	-
当期の収益以外	20	20	20	20	20
翌期繰越分配対象額	9,706	9,686	9,666	9,646	9,626

※単位未満を切り捨てているため、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

※「対基準価額比率」は、「当期分配金」(税引前)の期末基準価額(分配金(税引前)込み)に対する比率で、当ファンドの収益率とは異なります。

2 今後の運用方針

償還のため、該当事項はございません。

3 お知らせ

約款変更について

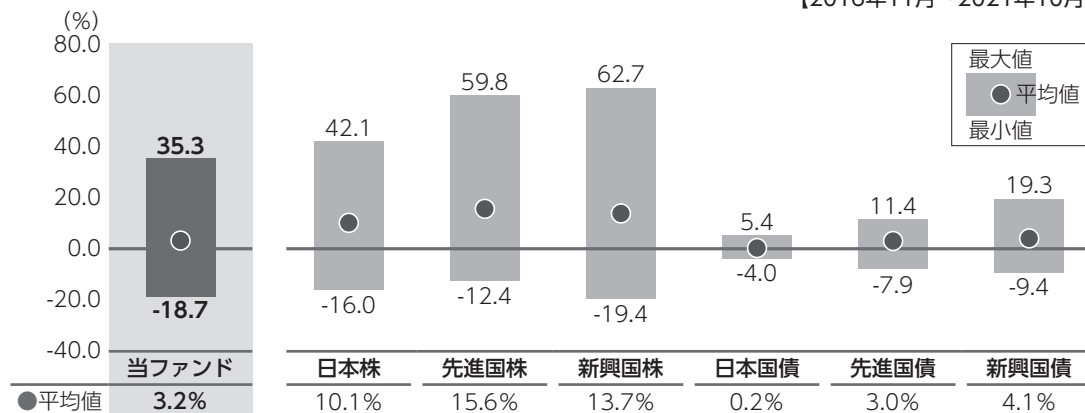
該当事項はございません。

4 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／債券
信 託 期 間	2011年11月30日から2021年11月19日まで
運 用 方 針	投資信託証券への投資を通じて、新興国を含む世界の企業が発行する転換社債 (CB) 等を実質的な投資対象とし、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。
主 要 投 資 対 象	<p>当ファンドは以下の投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド AUD Class グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド BRL Class グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンド INR Class 世界の転換社債 (CB)</p> <p>キャッシュ・マネジメント・マザーファンド 本邦通貨建て公社債および短期金融商品等</p>
当 ファ ン ド の 運 用 方 法	<p>■新興国を含む世界の企業が発行する転換社債 (CB) 等へ実質的に投資することでインカムゲインの確保と信託財産の中長期的な成長を目指します。</p> <p>■グローバル・コンバーティブル・ボンド・ファンドは、ブルーベイ・アセット・マネジメント・エルエルピーが運用を行います。</p> <p>■原則として保有する外貨建資産に対し、米ドル売り、取引対象通貨買いの為替取引を行う外国投資信託証券に投資します。</p>
組 入 制 限	■外貨建資産への直接投資は行いません。
分 配 方 針	<p>■毎月19日 (休業日の場合は翌営業日) に決算を行い、分配を行います。</p> <p>■分配対象額は、経費控除後の利子、配当等収益と売買益 (評価損益を含みます。) 等の範囲内とします。</p> <p>■分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。</p> <p>※委託会社の判断により分配を行わない場合もあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p>

5 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

[2016年11月～2021年10月]



※上記期間の月末ごとに、それぞれ直近1年間の騰落率を算出し、最大・平均・最小を表示しています。よって、決算日に対応した数値とは異なります。

※当ファンドの騰落率は、分配金(税引前)を分配時に再投資したと仮定して計算したものです。

※全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

各資産クラスの指数

日本株	TOPIX (配当込み) 株式会社東京証券取引所が算出、公表する指数で、東京証券取引所第一部に上場している内国普通株式全銘柄を対象としています。
先進国株	MSCI コクサイインデックス (グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、日本を除く世界の主要先進国の株式を対象としています。
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (グロス配当込み、円ベース) MSCI Inc.が開発した指数で、新興国の株式を対象としています。
日本国債	NOMURA-BPI (国債) 野村證券株式会社が公表する指数で、国内で発行された公募固定利付国債を対象としています。
先進国債	FTSE 世界国債インデックス (除く日本、円ベース) FTSE Fixed Income LLCにより運営されている指数で、日本を除く世界の主要国の国債を対象としています。
新興国債	J.P.モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ダイバーシファイド (円ベース) J.P. Morganが算出、公表する指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象としています。

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースとしています。

※上記各指数に関する知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。また、上記各指数の発行者および許諾者は、当ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

6 当ファンドのデータ

当ファンドの組入資産の内容 (2021年11月19日)

有価証券等の組入れはありません。

純資産等

項目	第114期末 2021年6月21日	第115期末 2021年7月19日	第116期末 2021年8月19日	第117期末 2021年9月21日	第118期末 2021年10月19日	第119期末 2021年11月19日
純資産総額 (円)	1,078,782,164	1,052,679,840	944,478,573	881,128,193	899,635,197	852,757,717
受益権総口数 (口)	1,654,952,938	1,648,942,548	1,519,287,418	1,419,256,723	1,408,455,015	1,338,608,473
1万口当たり基準価額 (円)	6,519	6,384	6,217	6,208	6,387	6,370.48

※当作成期における、追加設定元本額は6,480,276円、解約元本額は387,244,110円です。

7 償還を迎えて

当ファンドは、2021年11月19日に償還となりました。

皆さまのこれまでのご愛顧に御礼申し上げますとともに、今後とも弊社ファンドをお引立て賜りますよう、お願い申し上げます。